保育北九州

令和8年1月1日
発　行　（一社）北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
（レインボープラザ5F）
電話（093）661-2153番
発行人　林　田　猛　利
編集人　西　　敏　昭

2026 220

〈提供　小倉北支部〉

「ことしは　うまどし」

（5歳児の作品）

表紙 …… 1
新年挨拶 …… 2～3
第63回北九州市保育研修大会 …… 4～5
研修・一期一会 …… 6
支部近況 …… 7
雑感・編集後記 …… 8

「おしょうがつ」

（5歳児の作品）

雑感　震災を経験して

二〇一一年三月十一日、東京での息子の卒業式を前日に終え、友人と三鷹のジブリ美術館へ行きました。大勢の人に人気の高さを感じつつ、一、二階と観覧しオブジェのある屋上を一周。下に降りようと階段の上に立ったところドーンと大きな揺れ。地震に慣れていない私は、小さな螺旋階段だったので「誰か下で揺らした?」と思っていたら「地震!!」という声があちこちからあがり大きな揺れがしばらく続きました。揺れが収まり、見学が再開されたものの二度目の地震で閉館となり、私たちは帰路につくためにバス停に移動。そこでは先頭が分からないほどの長蛇の列でいつ来るかわからないバスをひたすら待っていました。そんな状況にも拘わらず、誰一人愚痴を言う人はいませんでした。

そんな時、傍らにあったラーメン屋さんが「何もできませんが水でもどうぞ。トイレも使ってください」と並んでいるみんなに声をかけてくださいました。ありがたくいただいた後、しばらく経ってもバスの来る見込みはなく、避難所開設の案内があったのでそちらに行くことにしました。そこでもみなさんは静かに待機していました。私たちのテーブル前には青年と高齢者の方が座っておられましたが、青年が高齢者の方に「ご家族には連絡はできましたか?よかったら使ってください」と携帯電話を差し出していました。高齢者の方は申し訳なさそうに借りられていましたが、無事ご家族に連絡がとれたようでした。夜中の十二時を過ぎたころ、ようやく動き出した私鉄で渋谷へ移動し、そこから運よくタクシーに乗ることができ午前二時ごろホテルに着きました。地震から半日が経っていました。

途中、同僚、友人・家族からの電話やメールがあり、とても心強く本当にありがたく思いました。部屋で一息つき、テレビに映る三陸の津波の様子を目の当たりにし、映画のような光景に只々唖然とするばかりでした。まだ余震が続く中、ベッドの横に靴とバックを置き、洋服のままうつらうつらしていました。朝になり、空港に向かうためホテルをでると家路に着けなかった人たちでコンビニの周りは人だかりがしていました。空港にも大勢の人がいましたが、秩序を保ち、場所を譲り合う光景が随所で見受けられました。

あの時の規律正しさ・平常心・忍耐強さ・他者への思いやりなどの人々の気質に「日本もまだまだ捨てたものじゃない」と改めて日本の良さというものを実感し、未来に希望を見出すことができたことを今でも鮮明に覚えています。

もう十四年前のことではありましたが、グローバル化が進み、多様な価値観に翻弄される昨今。そんな今だからこそ未来の日本を支えていく子どもたちの育ちを担っている私たち保育士は、新しいものを取り入れながらも残さなければいけないものをしっかりと見極め、これからの保育に携わっていかなければならないと思っています。

東筑保育園　園長　越原　晶子

編集後記　── 下座行 ──

榎本栄一さんの詩に「ぞうきんは他のよごれをいっしょうけんめい拭いて　自分はよごれにまみれている」というのがあります。

ぞうきんは家の汚れをふきとり、保育園では部屋の汚れや給食後の食物の汚れをふきとり、自分はその汚れで真黒になります。

真黒に汚れたらバケツの水の中で洗われ絞られて再び汚れにまみれていきます。幾度も同じことが繰り返されやがてはボロボロになり捨てられます。

私たちはハンカチにはアイロンをかけ、大事にポケットにしまいます。しかし家の汚れを拭いたり、保育園での部屋や食物の汚れを拭いたりしたぞうきんの事は忘れがちです。

下座行とは仏教における修行の一つで、経験が浅い修行僧のとき、年配の僧侶を支え掃除や接待などを通じ仏道修行の基本的な姿勢、雑用を通して心を磨くという仏教の教えに基づいています。

私たちの仕事は乳幼児期にふさわしい生活の場を提供し、心身ともに健やかに育てる事と、安全で快適な環境の中で人とのかかわり方を通し芽生えを培います。しかしだれにも気づかれない仕事の中にこそ下座行という言葉の持つ響は私たちにしっかりした人生を歩みなさいと教えているようです。

美しい花のかげには、かくれた根の力、土の力があります。

保育の道を作詞された山下藹子先生は、「保育の道はけわしいけれど、幼いその芽がのびゆくように、かわいいつぼみがふくらむように、きれいなお花が咲きほこるように」とうたっています。

子どもと一緒の時間を過ごし、日々成長への手助けができることに何事にも代えられない喜びがあると言えるのではないでしょうか。

今年も皆様に役立つ情報を委員一同、紙面とWEBで発信してまいります。

「保育北九州」今年もよろしくお願いいたします。

「保育北九州」編集委員長　西 敏昭

新年のご挨拶

一般社団法人 北九州市保育所連盟
会長　林田 猛利

新年あけましておめでとうございます。

令和8年の新春を迎え、北九州市保育所連盟を代表し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、保育の現場で日々子どもたちと向き合い、健やかな成長を支えてくださっている保育士(保育教諭)、施設長、そして関係する多くの方々に心から感謝を申し上げる次第です。

顧みますと、昨年は「こどもまんなか社会」をキーワードに、その実現に向けた動きが加速した一年であったと感じています。背景には、少子高齢化に伴う出生数の減少という社会現象があります。子どもを産み育てることが難しい経済情勢や、女性の社会進出が進んでいることなども要因となり、厚生労働省が発表した令和6年度の人口動態統計では、出生する子どもの数が初めて70万人を切ることになりました。第2次ベビーブーム時は200万人、約10年前には100万人であったものが、急激に減少する傾向をたどっている現実があります。

このことは、将来を支える子どもが生まれない社会となったことを示すことにもつながり、見方によっては、あえて「こどもまんなか」を唱えなければならない時代に入ったということができると思います。

一方、保育の世界では、待機児童数も落ち着きを見せ、量から質への転換という流れが起きています。保育所(園)に期待される役割も多様化し、毎日の保育に加え地域社会の子育ての拠点として、子育て中の親子の支援や関係する情報発信をはじめとしたステーション機能を併せ持つことが求められています。加えて、令和8年度からは「こども誰でも通園制度」を実施することが義務化され、新しいサービスの提供も行わなければなりません。保育士の絶対数が不足する現状にあって、次々と課せられる役割が各施設のさらなる負担につながることがないよう、制度設計や運用に注視をしていかなければならないと考えるところです。

また、それぞれの保育所(園)においても、これから先の園児や職員の確保は喫緊の課題となっています。当然のことながら子どもの数が減るとともに、歴史に幕を閉じる保育士養成校が散見される中、ますます厳しい時代を迎えることとなります。創意・工夫を重ね、各園の魅力ある取り組みをもって、人が集まる施設づくりを行う必要があります。保育所連盟も皆さんの拠りどころとして、ケースに応じた相談・援助ができるよう情報の収集に努め、会員各位がやりがいをもって保育に臨める環境を整えていくことができるよう努力を重ねる所存です。

幸い北九州市は、行政の厚いご理解と、先達が築いてくださった研修体制をはじめとした、全国にも誇れるたくさんの財産を保有しています。私たちは、そこに子どもたちの幸せを願う熱い気持ちを注ぎ、「保育は北九州市から」と声高らかに発することができるよう毎日の保育を積み重ねていかなければなりません。

厳しさを増す状況ではありますが、何者にも代えがたい子どもたちの笑顔のため、会員お一人おひとりのさらなるご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、関係する皆様にとって新しい年が輝かしい1年になるとともに、北九州市の保育所(園)で優しさと活気あふれる保育が推進されることを祈念し、新年のご挨拶といたします。

本年もよろしくお願いいたします。

門司支部
支部長　西　敏昭
保育士会長　日笠　智子

小倉北支部
支部長　鷹取　和教
保育士会長　室田　尚子

小倉南支部
支部長　伊賀良　昌宏
保育士会長　宇津　郁子

会長　林田　猛利

顧問　西村　賢了
酒井　光義
岡村　信久

副会長　北野　久美
伊賀良　昌宏
鷹取　和教

保育士会副会長　黒田　玲子
重國　香
岸　清美

本年も宜しくお願いします

若松支部
支部長　橋原　義晃
保育士会長　有田　美加

八幡東支部
支部長　境目　智義
保育士会長　河渕　洋美

八幡西支部
支部長　坂井　浩司
保育士会長　山部　進子

戸畑支部
支部長　平田　敬子
保育士会長　堀　千鶴代

第63回 北九州市保育研修大会

一日目　施設長特別研修

【行政説明】

北九州市の保育行政について

北九州市子ども家庭局こども施設企画課
指導支援担当課長　**伊藤 京子**

児童福祉法等の一部を改正する法律が施行されました。保育所等における虐待等の不適切事案が相次いでいることから職員による虐待発見時の通報義務等の仕組みを設けることとなりました。通報は北九州市へ行い、状況については福岡県が取りまとめて公表します。

また、改訂版ガイドラインにおいて、「虐待」の概念を軸に講ずるべき対応が再整理されています。

【講　演】

「DVと児童虐待はつながっている ～家族のSOSをキャッチするために～」

講師　ルポライター　**杉山 春 氏**

講演では実際の虐待事件や裁判例をもとに家庭内の力関係や心理的DVが子どもの暮らしや心に与える影響、そしてDVと虐待の連続性が示されました。

子どもの問題行動の背景には、父母間のDVや貧困、社会的孤立など外からは見えにくい要因が複雑に絡み合っており、虐待は個人の問題だけではなく、社会の文化や価値観とも関係していることが強調されました。

家庭内に支配や沈黙があると子どもはSOSを出しにくく、身体的暴力だけでなく、言葉の否定や無視、過剰な管理などの心理的支配も虐待に含まれるとのことでした。

子どもは本来小さいうちに「感じたことを言葉にし、大人に受け止めてもらう経験」を重ねることで、安心感や自己肯定感を育てますが、その回路が奪われると気持ちを表現しにくくなり、周囲の大人も変化に気づきにくくなります。

保育所は子どもが安心して自分の気持ちを表現できる「もう一つの居場所」として重要な役割を担っています。保育士は子どもの表情やつぶやき、遊びの変化など小さなサインを丁寧に受け止め、家庭だけでは気づかれにくいSOSを早期にキャッチして、気になる様子が見られる場合には、一人で抱え込まず園内で共有し、必要に応じて児童相談所や医療、地域支援者と連携しながら子どもと家庭を支えていくことが求められています。さらに支援者自身が自らの判断や関わりを言語化し、学び続ける姿勢を持つこと、そして社会全体の文化や価値観を見つめなおす視点が欠かせないと締めくくられました。

二日目　全体会

【基調報告・活動報告】

（一社）北九州市保育所連盟
会長　**林田 猛利**

林田猛利会長からは、今年度6月の総会をもって前会長 山本文雄先生から引き継ぎ、会長に就任したことをご挨拶されました。また、保連、私保連の組織説明や北九州市独自の研修体制、保育を取り巻く情勢等について報告されました。最後に「子どもたちに良質なサービスが市内全域で提供できるよう皆さんで取り組んでいきましょう」との言葉で締めくくられました。

（公社）北九州市私立保育連盟
会長　**山本 博文**

山本博文会長からは、全国の出生率や待機児童数、離島における人口減少による休園問題をはじめ、こども誰でも通園制度の補助金の見直し、虐待対応の強化やこども性暴力防止法の施行等、様々な情報をいただきました。

また北九州市の現状報告とともに、熱中症対策の拡充や調理員の配置基準の見直し等の職場の定着を目指した要望を、北九州市や国に上げていく事を約束されました。

北九州市保育士会
会長　**北野 久美**

北九州市保育士会会長であり、令和7年度からは全国保育士会会長に就任された北野久美会長より、全国保育士会の成り立ちや主な取り組みについての説明がありました。

保育士会の組織的意義や専門職としての保育士の在り方を明確に示され、主任保育士の専任配置や保育の質の向上に向けたエビデンスに基づく提言活動を報告されました。また国の検討会議への参画を通じて、現場の実態と課題を的確に発信している現状を紹介されました。

倫理綱領に裏打ちされた専門職としての自覚と連携の重要性を強調し、仲間と共に支え合い進む「学び愛　ともに前へ」というメッセージで締めくくられました。

日々の保育で「視点はいつも子どもたち」を原点に、子どもたちの未来のために声を上げていく重要性を改めて感じる報告でした。

【実践発表】

認定こども園　リアンたかのす保育園
川口 沙織

保育士の事務作業の効率化に向け、ICT化に取り組んでいる報告でした。

その内容は日々の子どもの登降園の管理から、保護者との連絡ノート・保育士の事務日誌や保育計画作成など多岐にわたる取り組みがされていました。

また、保育園の紹介や学生の就職活動に向けインスタグラムに取り組み、一定の効果が出ている報告もありました。一方、ICT化を進めるにあたり個人情報に対する配慮が重要で保護者からアンケートを集約し意見を聴くなど大変参考になる内容でした。

こども施設企画課
伊藤 京子

「ありがとう〝ぴあちぇーれ〟～みなさんと共に歩んだ奇跡～」と題して、令和7年度末で活動終了となる子育て支援サロン「ぴあちぇーれ」のこれまでの活動についての報告がありました。「ぴあちぇーれ」の前身は、昭和56年から全国保母会のプレ実施として光沢寺保育園で取り組まれた電話相談です。その後、平成17年に現在の「ぴあちぇーれ」となり、保育士会に活動が委託され、以来44年間に及ぶ電話相談による子育て支援をおこなってきました。

【記念講演】

「しげちゃん一座 絵本とトークと音楽LIVE」

女優・室井滋、絵本作家・長谷川義史、ミュージシャン・岡淳、マジシャン・大友剛の4氏で構成されたしげちゃん一座。平成23年から、一座として活動されています。

オープニングは「パンチパーマちりちり」の映像からスタート。手拍子で会場は早くも盛り上がり、ステージに惹きつけられていきました。

「じゃがいもポテトくん」の絵本朗読は、室井さんと長谷川さんの語り口にサックスとピアノの演奏がプラスされて、聞きごたえがありました。

またまた「パンチパーマちりちり」の曲では、パンチパーマは北九州発祥！との話があり、会場はそうそう！と笑いに包まれました。

次は、参加型の絵本紹介。観客席から女性6名・男性2名がステージへ上がり、絵本「へっこきよめどん」の効果音を任されました。面白おかしい効果音は、お話の魅力を倍増させてくれました。そして、子どもたちに贈る応援歌「保育園ブルース」、マジックショー、スペインの絵本「カラーモンスター」と続きました。

絵本「しげちゃん」は、室井さんの温かい朗読とご両親の愛情あふれる『しげる』の名付けの想いに触れ、思わずほろりとさせられました。皆で合唱した「にじ」は、より深く、歌詞が心にしみました。

最後に絵本「へいわってすてきだね」の朗読がありました。12年前の6月23日・沖縄慰霊の日に朗読された与那国島在住の小学1年生の男の子の詩を、しげちゃん一座は心を込めて、会場の皆に届けてくれました。とびきりのエンターテイメント体験に、あっという間の時間でした。

＊ およろこび ＊

瑞宝双光章（令和7年・春）
社会福祉法人　宝寿会
理事長　橘原 智司

瑞宝単光章（令和7年・秋）
大川保育園　保育士　上瀧 美絵

厚生労働大臣表彰（社会福祉功労者）
千防保育所　保育士　亀田 美佐子

全国保育協議会　会長表彰
沢見あやめのもり保育所
所長　藤田 淳子
認定こども園塔野保育園
園長　金原 秀樹
認定こども園西教寺保育園
園長　日野 信子

全国私立保育連盟　保育功労賞
認定こども園別所保育園
園長　山本 博文
認定こども園塔野保育園
園長　金原 秀樹

西村法昭顕彰会表彰
れんげ心の花保育園
園長　黒田 玲子
社会福祉法人　宝寿会
理事長　橘原 智司
金田保育園　副園長　太田 千枝子

研修・一期一会

第9回九州保育三団体研究大会に参加して

令和7年7月17日（木）・18日（金）に、沖縄県の那覇文化芸術劇場で「第9回九州保育三団体研究大会」が、〈すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現をめざして～子どもの笑顔を絶やさない、平和の継承～〉という大会主題のもと開催されました。オープニングでは、沖縄の琉球古来の伝承を基にした勇壮な龍神の舞「龍神伝説」のステージがあり、獅子や太鼓、旗の舞が織り交ぜられた琉球芸能は圧巻でした。今年は、沖縄戦終結から80年という節目の年であり、未来を担う子どもたちを慈しみ育てていくことこそが、真の平和の礎を築くことであるという沖縄県知事の挨拶とともに、大会がスタートしました。

初日の基調講演では、こども政策の動向についてこども家庭庁 荒牧美佐子氏の話がありました。子育てをしている人たちの困っていることに向き合い、いざというときに守るための仕組みを作る。また、子どもたちがぶつかる様々な課題を解決し、大人が作ってきた社会を「こどもまんなか」社会へと作り替えていくための司令塔となるという話があり、変わりゆく時代とともに、社会全体で子育てを行っていく必要性を改めて感じました。

子どもの権利や意見の尊重に関する調査における研究結果から見えてきた課題としては、子どもが思いや考えを自由に表現できるように対話の時間を増やし、子どもが主体的に話し合える環境を保育者が作っていくことが課題だとされました。子どもが思いや考えを安心して表現できるようになると、さらに相手の気持ちを尊重して、互いの考えや思いを認め合うことができることを学び、積極的に対話の時間をクラスの中で作っていきたいと思いました。

その後、第36回九州ブロック保育士会セミナーがあり「指針改定に向けた保育の質の再確認」というテーマで、神戸大学大学院教授 北野幸子氏と、全国保育士会会長 北野久美先生の対談が行われました。保育士の社会的認知を高く、子どものためにより良い保育環境を整えられるようにするためにも、専門職だという自覚を持ち、保育の質の再確認をし続けることが大切だと感じました。子どもの気持ちに敏感になり、遊び・生活こそが学びであることや、体験・経験的に育つことを前提に、子どもの興味や関心を起点とする保育計画を立てて行こうと思いました。

2日目は、「子どものより良い育ちと安全安心の環境づくりに向けた関係機関とのネットワーク」というテーマの、第5分科会に参加させていただきました。2県の発表やグループ討議を通して、他県の保育の現状や他機関との連携の仕方・工夫、「5歳児健診」について話を聞くことができ、学びの多い時間を過ごすことができました。

最後に、記念講演「保育中の子どもの声～自分の声を聞きとられる心地よさ　多様な声を響き合わせる面白さ～」をテーマに、山梨大学名誉教授加藤茂美氏の講演がありました。子どもの言葉や行動の裏側にある本当の気持ちに気付き、安心して自分の気持ちを表現できるような環境づくりをしていくことが、専門職である私たち保育士の役割であると学びました。また、言葉・対話の大切さについて、改めて考えさせられる時間となりました。子どもたちに任せたり、それを見守ったりしながら待つことで、子どもたち自身が主体的に考え合う集団へと育っていくという、子どもたちの力を信じて、日々の保育に努めていきたいと思いました。

あおぞら保育所　**岩村　絵里子**

寄付

（一社）北九州市保育所連盟
（公社）北九州市私立保育連盟
北九州市保育士会
へご寄付

社会福祉法人宝寿会　理事長　橘原 智司様より保育事業発展のためご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますとともに心から感謝申し上げます。

支部近況

小倉南支部篇

食事研究部―試食交流会ついて

日時　令和7年8月29日　13時半
場所　若園市民センター調理室
テーマ
「こどもに食べてもらいたい献立」

カレー・チキンカレー・ポークカレー・スタミナカレー・ひき肉とコーンのカレー・カレーうどん・びっくりカレー・大豆入りキーマカレー。カレーだけでもざっと8種類。汁物は50種類以上ご飯ものも数十種類。チャプスイ、インディアンスパゲッティー、揚げサラダ、チキンボイルドサラダ、柿なま酢、フレンチドッグ、スパゲッティーボンゴレなど、いつの間にか消滅していったものも合わせると北九州の給食の献立は、桁違いの種類で尊ささえ感じます。

私は子どものころから偏食は少ないものの唯一豆類が苦手でした。田舎育ちで両親は仕事をしていて食事の支度は祖母がしていたものですから豆料理は定期的に食卓に上がりました。食べられないわけではありませんでしたが、醤油で炊いたインゲン豆、味噌づくりの途中で縁起物だからと食べさせられる茹で大豆の砂糖がけ、味噌で炊いたそら豆等々どれもとてもとても苦手でした。しかし入職1年目で初めて目にしたポークビーンズ。えっ大豆？一瞬ためらいましたが子どもたちが普通にというより喜んで食べているのに驚きました。そのポークビーンズのおかげで私は少しずつ苦手な豆類をひそやかに克服することができました。

小倉南支部の給食に従事させていただくようになって14年になります。調理の先生方と一緒に日々の給食業務について研鑽しています。

その一端が給食試食会です。食事に関する研修会に揚げるメニューを各班に分かれてテーマに沿って考え出します。調理員さんの泉のように湧き出るアイデアと、結束力には毎回驚かされます。各班で決まったメニューを試作し先ずは南区の役員で試食し微調整してから本番の給食試食会で各園の代表者に試食していただきます。おいしいと思った一品に票を投じていただいてトップ当選した品を北九州市の食事に関する研修会に持って参加します。そこでまた北九州市の7区の作品を賞味していただき、優れた作品が北九州市の統一献立の仲間入りするという運びです。小倉南支部から上がった作品はソイミートペンネ、かみかみサラダ、ガパオライス、青のりかおるささみスティックなどたくさんあります。私が好きな給食は、高野豆腐の卵とじ、ちゃんぽん、伴三絲（バンサンスー）です。今回この紙面に揚げたメニューはほんの一部です。

折に触れて発言させてもらっていますが、私の体の三分の一は給食でできています。給食の偉大さと尊さを感じずにはいられません。

スタミナ丼

鶏肉とおからのナゲット・きのこスープ